

デンソー山岳部 05 年春山合宿報告書

05/4/29~5/1 白山・別山

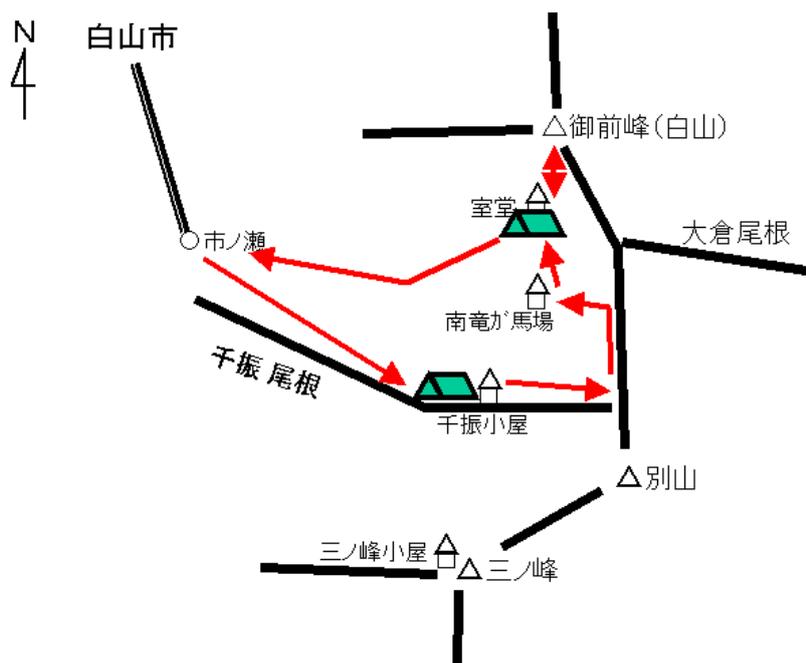


室堂にて - 御前峰^{ごぜんほう}を背に

【メンバー】

CL 板倉英夫 SL 竹内幹雄 藤田健治 亀山誠 金子清 町田修 芦田直之 山田明 塚本英吾

【概念図】

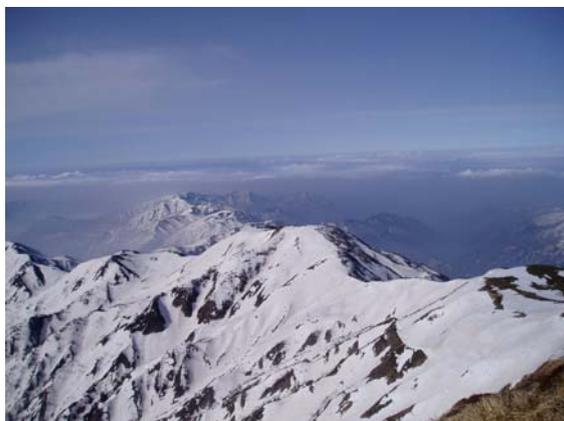


4 月 29 日 雨

刈谷を 6:30 に出発、北陸自動車道を使って福井北 IC で降りて、白峰温泉へと向かう。天候は福井県に入ったところで晴れから曇りになりやがて雨となってしまった。車は白山温泉のある市ノ瀬に置いた。準備をして 11:45 に小雨の中を歩き出す。林道を 30 分ほどでチブリ尾根に登る登山口に着いた。ここから先は残雪の中を進んでいくが夏道は雪の中でわかりにくい状態である。尾根に出る直前は、ブッシュの中で急登を登っていく。13:30、稜線に出たところで夏道と交わりほっとして一息つく。そこからしばらく進むと前方から声が聞こえてくる。3 人組のパーティでスキーで避難小屋から下ってきたという。さらに進んでいくがガスがかかっている視界は良くない。緩やかな雪道をひたすら登っていく。16:40、出発から 5 時間ほどでようやく避難小屋にたどり着いた。小屋の中は先客がいてにぎやかであった。そこで小屋の外にテントを張り夕食の準備をする。テントの中は暖かくほっとする。おいしいトン汁を食べながら 9:00 睡眠に入る。(竹内)

4 月 30 日 曇りのち晴れ

3:00 起床、焼豚・メンマ・卵入りのラーメンを食べ、5:00 避難小屋を出る。曇りだが、きのう到着時の寒さは和らぎ、濃霧は晴れている。7:00、30 度はあろうかという絶壁を四苦八苦しつつ登る(写真)。7:40、御舎利山おしゃりに到着する。ここに荷物を置き、別山べっさんとの間を往復する。さわやかなゲレンデを散歩する気分を味わい、別山での胸のすくような壮大



な展望(写真)に息を呑む。町田氏が「これが春山のだいご味」と言う。戻ると、避難小屋に泊まっていた岡崎山岳会からの 4 名が追いつき、食べ物を補いながらしばし対話(この一行とはこのあと会わなかった)。8:30「お先に」と御舎利山を後にすると、ここからは稜線を行き南竜ヶ馬場みなみりゅうの小屋を目指してアップダウンを繰り返すことになる。雪庇せつびに近寄らないよう注意しながら進む。先頭の山田氏がおもに木々の近くにあ

る深い落とし穴に何度か落ち込み、体力を落とす。9:40 ごろ「屏風」の端まで来る。途中私のペースが落ちるが、亀山氏に「男だろ」と言われ発奮する。11 時過ぎ、南竜ヶ馬場で休む。Tシャツ一枚でも歩けそうな天気のため、何人かが下CW-X一枚になる。ここからの「展望歩道」は竹内氏が先頭で行く。幅 10mほどの線状の林に沿って、だらだらと長い登



り道に行く。途中林の中で休む(写真)。ここから私が先頭で行き、まただらだらと登る。山スキーを履いた若い男性2名がさっそうとわれわれを追い越す。藤田氏は「ここからなら這ってでも山荘に着ける」というが、かなりきつい。室堂の山荘まで1時間以内であることもあり、しびれを切らした人々が先に行ってしまう。私はやっとのことで13:30、室堂の山荘に着く。山田氏は私以上に苦しそうであった。御前峰の

斜面を滑走する人々が数名いる。半ば雪にうずもれた小屋は無料開放されていたためここに泊まることにする。飲み水も利用できる。山田氏と私以外は御前峰まで往復する。その後、3本の練乳を溶かして飲み、スープとレトルト食品を食べ、20名程度の宿泊者の訛った談笑を聞きながら7時ごろ眠りに落ちた。(芦田)

5月1日 晴れ

4:00に起床する。4:40出発し、前日に疲労で登れなかった白山の頂上を目指す。足場の雪はアイスバーン状に凍っているため、前日の登山者が残した足跡をトレースしながら進む。傾斜は比較的緩やかである。やがて、雪が少なくなり、足場は石の階段に変わる。20分程歩くと、頂上の神社に到着した(5:10)。お参りを行い、日の出と北アルプスの景色(写真)を見た後下山し、5:40に室堂平の小屋に到着した。朝食を取り、パッキングを行った後、7:00に市ノ瀬駐車場を目指して下山をはじめた。最初は緩やかな下りであったが、やがて急な斜面に差し掛かり、駆け足で下山する。足場が柔らかい雪なので、足への負担も少なく、快調に下山することが出来た。結果、8:40には別当出合登山口に到着してしまった。登りに掛かった時間を考えると、こんな短時間で下山出来たことに少し驚いた。登山口でしばし休憩した後、1時間程林道を歩き、10:20に市ノ瀬駐車場に到着した。近くの温泉に入り、体を休めた後、帰路についた。高速道路の渋滞も無く、16:30に無事に刈谷に到着した。(山田)



会計

支出		収入	
高速	19,000	会費	6,800×9
ガソリン	20,000		
車両償却	6,000		
食糧	16,200		
合計	61,200	合計	61,200

春山合宿を振り返り

計画	年度計画から春合宿は、単発で残雪の豊富な白山周辺を選択し、リーダー不在で計画を進めてきたが、各自のメンバーシップにより問題なく進めてもらった。ただ、雪上訓練の未実施等新人が冬山合宿以来の山行であったことなど、できる人で最低限の対応をしていく必要があったと反省する。
行動	天候にも恵まれ、計画的にも余裕があるため、順調に進めることができた。山行の久しい参加者もいたようなので、ペースに少しバラツキがでたので、今後の合宿では、事前準備の中に最近の山行状況の確認と対応がいるのかも知れない。
ルート	千振尾根は尾根上へ上がるまでが分かりにくく、少し藪こぎをしたが、さほど難しい箇所がなく進めた。稜線手前の急登は天候も良かったので、無理に左側を回ったが、夏に通っていない(記憶がない)ルートなので、慎重に反対ルートの偵察も含め、進めるべきだった。その他、下山路も含め、天候に恵まれ迷うことはなかったが、全体の広い雪原なので視界不良時は、注意したい。
装備	冬合宿の反省から、ガスカートリッジを+α用意したが、暖かいのでほとんど余った。冬と春のガス使用量基準は、別途決めるべきである。
食糧	担当の工夫と前準備により楽しくおいしくとん汁をいただけた。山行の形態により一捻りすると今回のように食事が充実する。今後の参考にしたい。

最後に、留守部員の方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。(板倉)

メンバーからの感想：

- 初日は、雨の中で視界も悪くひたすら歩くので行程が長く感じたが、次の日からは好天に恵まれ頂上からの景色も見えて楽しい山行でした。(竹内)
- 天然の冷蔵環境を生かして食糧を少し工夫したところ、メンバーに喜ばれ準備のかがあった。その分荷物が重くなり、長い登りはきつかったが達成感があった。(芦田)

以上